

令和7年度 大阪府立茨木工科高等学校 第1回学校運営協議会（定時制部会）議事録

1. 日時

令和7年6月13日（金）午後2時00分～3時30分

2. 場所

新棟展開教室

3. 出席者

学校運営協議会委員（6名）

後援会会長 川口 雅夫

学校医兼産業医 田中 孝二

ユービック情報専門学校前校長 北村 翼

大阪府立茨木工科高等学校 前准校長 小川 寿之

保護者 中田 愛

保護者 松本 礼代

教職員（8名）

准校長 南出 孝明

（事務局）

教頭 佐々木 博章（事務局長）

首席 播田 晃久

教務主任 喜多 亮介

生活指導主任 平山 篤

進路指導主任 岩永 満

保健指導主任 井上 寛一

書記 佐々木 花菜

（以上全 14 名）

4. 次第

- ・開会の挨拶
- ・会長挨拶
- ・教育活動報告
 - 経営計画・評価報告
 - 分掌ごとの進捗報告（教務・生活指導・進路・保健）
- ・その他（質疑応答など）
- ・閉会の挨拶
- ・事務連絡

5. 議事の内容

・事務連絡（事務局長）

昨年度報告のICT整備状況（電子黒板対応プロジェクター・教員端末機）について報告
学校運営協議会の役割と運営要項について確認
定足数を充足しているため、本協議会の成立を宣言
会長及び副会長の選出
保護者からの意見書について、提出がない旨報告

・開会挨拶（准校長）

4月1日付けで着任。自身の専門は農業科であり、工業科は初めてだが、生徒たちの活動や成果物を見て感心している。

本日は、昨年度の総括と今年度の計画について協議をお願いしたい。活発なご意見をいただき、今後の学校運営に生かしていきたい。

・会長挨拶

現代社会では生産性や効率が過度に重視され、「面白くない仕事」が増えていると感じる。仕事の面白さを見出すことが重要であり、教育の場でも、生徒たちが将来「仕事を面白くする」ための考え方やスキルを学べるような指導が求められるのではないかと。

AI化が進む中で、人間にしかできない創造的な部分をどう伸ばしていくかが教育の課題。本校の教育活動に期待している。

・協議事項

（1）令和7年度の学校経営計画・学校評価について

「めざす学校像」「中長期的目標」については、前任准校長が策定し、昨年度の協議会で承認されたものを継承する。

ただし、評価指標について、以下の2点を変更したため報告する。

自動車整備士3級試験の評価指標の文言変更

変更前：受験率100%、合格率100%を維持する。

変更後：受験率100%、合格率100%を目指す。

（理由）：昨年度、試験傾向の変化等により合格率100%を達成できなかったため、現実的な目標として文言を修正した。現在、自動車科教員が問題傾向を分析し、生徒の基礎学力向上を含めた対策を検討中である。

広報活動（ホームページのブログ更新）の評価指標の変更

変更前：ブログの発信を年間80回以上行う。

変更後：各学年・分掌などが月1回のペースで更新する。

（理由）：「年間80回以上」という回数目標では、特定教員に負担が偏り、情報発信の視点も偏る懸念があった。今後は、多くの教職員が関わることで、多様な視点から学校の魅力を発信することをめざす。

（2）各分掌からの報告

・教務部より

総括：校務支援システムの刷新、全学年での新カリキュラム適用、入試のICT化（オンライン出願、デジタル採点）などが円滑に行われた。

今年度の主な変更点：校外学習を金曜日に実施、進路面談指導週間を短縮し授業時間を確保した。

令和7年度の主要教科書選定：文部科学省や教育委員会からの通知に基づき、公正・透明性を確保し、本校生徒の学習にふさわしい教科書の選定作業を開始した。先日、第1回教科書選定委員会を開催し、今後の流れを確認した。選定結果については、今後の協議会で報告予定。

・生活指導部より

生徒の状況：在籍生徒数は44名。全体的に落ち着いているが、一部で授業中のスマートフォン使用などの課題があり、指導を継続している。

学校行事：6月7日に体育大会（バレーボール）を実施。学年を超えて良い雰囲気で行われた。

・進路指導部より

昨年度の実績：卒業生10名のうち、就職が8名（決定率100%）、進学が2名。

今年度の計画：企業見学、進路ガイダンス、職業適性検査などを実施予定。

・保健指導部より

定期健康診断は無事に進行中。防災訓練や防災講演会を計画している。

（3）質疑・意見交換

・自動車整備士試験の合格率低下について

委員：自動車業界は人材不足が深刻なのに、なぜ試験の難易度が上がるのか。国の方針に疑問を感じる。本校は自動車整備士の資格取得が大きな魅力であり、この状況は学校にとって厳しいのではないかと。

→ 試験傾向が変化し、単なる暗記では対応できない応用力が問われるようになったことが要因。現在、自動車科の教員が問題傾向を分析し、生徒の基礎学力向上を含めた対策を検討している。過去問演習だけでなく、授業内容そのものの見直しも行い、合格率向上をめざしていきたい。

・学校の広報・魅力発信について

委員：ホームページのターゲットは中学生やその保護者。学校の特色（資格取得、ものづくりなど）が分かりやすく伝わる内容にすべきではないかと。

委員：茨木工科高校の特色や強みを、地域の中学校やソーシャルワーカーなど、より広い範囲に知ってもらうためのアプローチが必要ではないかと。生徒が「この学校で何を学べるか」を具体的にイメージできる情報発信が重要ではないかと。

委員：体育大会などの行事は、生徒たちの生き生きとした表情が見られる良い機会。保護者にもっと見てもらえるような工夫はできないか。

→ご指摘の通り、広報活動は重要。今後は生徒募集だけでなく、多様な視点から学校の魅力を発信していきたい。ソーシャルワーカーとの連携も検討する。行事の公開については、生徒たちのプライバシーにも配慮しつつ、可能な範囲で検討したい。

- ・教員不足と外部人材の活用について

委員：教員不足は深刻な問題。特に専門教科の教員確保は困難ではないか。

委員：外部の専門家（プロの技術者など）を特別講師として招き、生徒に専門的な知識や現場の声を届けることはできないか。

→教員不足は非常に厳しい状況。特に定時制は勤務時間の問題もあり、応募が少ない。外部人材の活用については、大阪府の制度として「特別非常勤講師」などがあり、教員免許がなくても専門知識を持つ方が授業を支援することは可能。ただし、予算や手続きの問題があり、学校単独で簡単には進められないのが現状。

- ・生徒の学習意欲と基礎学力について

委員：資格取得をめざす上で、生徒の基礎学力が課題である。対策は講じているか。

→まさにその通り。特に自動車整備士試験では、専門知識以前の読解力や計算力が求められる場面が増えている。ゼロ限目の「総合基礎」の取り組みも、そうした基礎学力の補充を目的の一つとしているが、受講を希望する生徒が少ない現状。

→「総合基礎」の前期受講者は8名。特に、昨年度から導入した小学生段階から自主学習が可能なAIドリルを活用している。教員と相談の上、各自で、学習内容を決定し、特に、1年生の3名は意欲的な取り組みを見せてくれている。

6. 閉会挨拶（准校長）

活発なご意見をいただき感謝する。いただいた意見を真摯に受け止め、今後の学校運営に反映させていきたい。

7. 事務連絡（事務局長）

次回は11月28日（金）に開催予定。

令和7年6月13日（金）
大阪府立茨木工科高等学校
定時制の課程
准校長 南出 孝明